

# コミュニティのこれからと 地域活動について

## 実施報告書

令和7年2月

中央区・中央区社会福祉協議会

### 【目次】

地域福祉ワークショップの目的	1
グループワークの流れ	3
グループワークの結果	4
資料編(プログラム、写真、アンケート結果)	9

## 1 地域福祉ワークショップの目的

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定、令和3年3月には中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会がより一層連携を強化して「地域共生社会」の構築を目指すこととしたところである。

「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」という基本理念にあるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取り組みはもちろんのこと、区民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要である。

地域福祉ワークショップは、参加者同士の自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合い、横のつながりを深めるとともに支えあいの地域づくりを推進することを目的としている。

## 2 主催

中央区・中央区社会福祉協議会

## 3 開催日

令和7年1月30日(木) 18:30～20:30

## 4 参加者数

18名(定員 25 名、申込者数 22 名)



## 5 当日のスケジュール

タイムスケジュール	
1. オリエンテーション	プログラム説明
2. 講演 (20分)	「中央区の地域福祉を考える」 講師:駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
3. 報告 (10分)	「区内の地域活動拠点について」 中央区社会福祉協議会・事務局 職員
4. グループワーク (80分)	「中央区におけるコミュニティ・地域活動のあり方」をテーマに、グループで話し合いを行います。
①説明(5分) ②話し合い(45分) ③発表(20分) ④総括(10分)	●ファシリテーター 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏 ●サポーター 中央区社会福祉協議会 職員  ①テーマに沿って話し合います。 ②グループで話し合った結果を発表します。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイスをいただきます。

(120分)

## 6 報告「区内の地域活動拠点について」

区では、令和2年に策定した「中央区保健医療福祉計画2020」の基本施策2「気づきあい支えあいつながる地域づくり」における取組の一つとして、地域活動拠点の整備を進めている。地域活動拠点は、身近な地域で地域住民が集まり定期的な活動を行う場、参加者同士つながりを深める場として今日まで機能してしてきた。

現在区内には3か所の地域活動拠点(勝どきデイルーム、はまる一む、ツキチカ!)を設置しており、その活動状況を報告し、地域活動拠点の概要について紹介した。

## 7 グループワークの流れ

4つのグループに分かれ、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員等が加わり、テーマに沿って意見交換・集約を行った。

- ① 自己紹介
- ② 「司会」と「発表」を決める
- ③ 講義内容を踏まえ意見交換のテーマを確認
- ④ 個人ワーク(付箋に意見や思いを書き出す)
- ⑤ 付箋をもとに意見交換を行い、要旨を模造紙にまとめる
- ⑥ グループで話し合った意見を発表
- ⑦ ファシリテーターからの総括コメント

(講義内容)

- ・地域活動の燃料(原動力)は「共感原理」である。
- ・地域のニーズ(困りごと/課題)を知り、そのニーズに共感し、自分たちに何ができるのか考えることが、新たな活動への一歩につながる

(意見交換のテーマ・ヒント)

地域活動・地域活動拠点のあり方について～思いを共有しよう～	
地域の特徴 気になっていること	・ 地域の特徴、好きなどころ ・ 地域の心配事、気になっていること
地域活動の魅力 気になっていること	・ 地域活動の魅力、参加した(したいと思った)きっかけ ・ 地域活動の心配事、気になっていること
地域活動拠点でやりたいこと	・ こういう活動があると良いのでは?活用のアイデア ・ どうすれば地域活動拠点を周知できるか
私ができること 必要なもの	・ アイデアを実現するために私(私たち)ができること ・ アイデアの実現に必要な仕組み(ヒト・モノ・カネ?)



## 8 グループワークの結果

### 1グループ

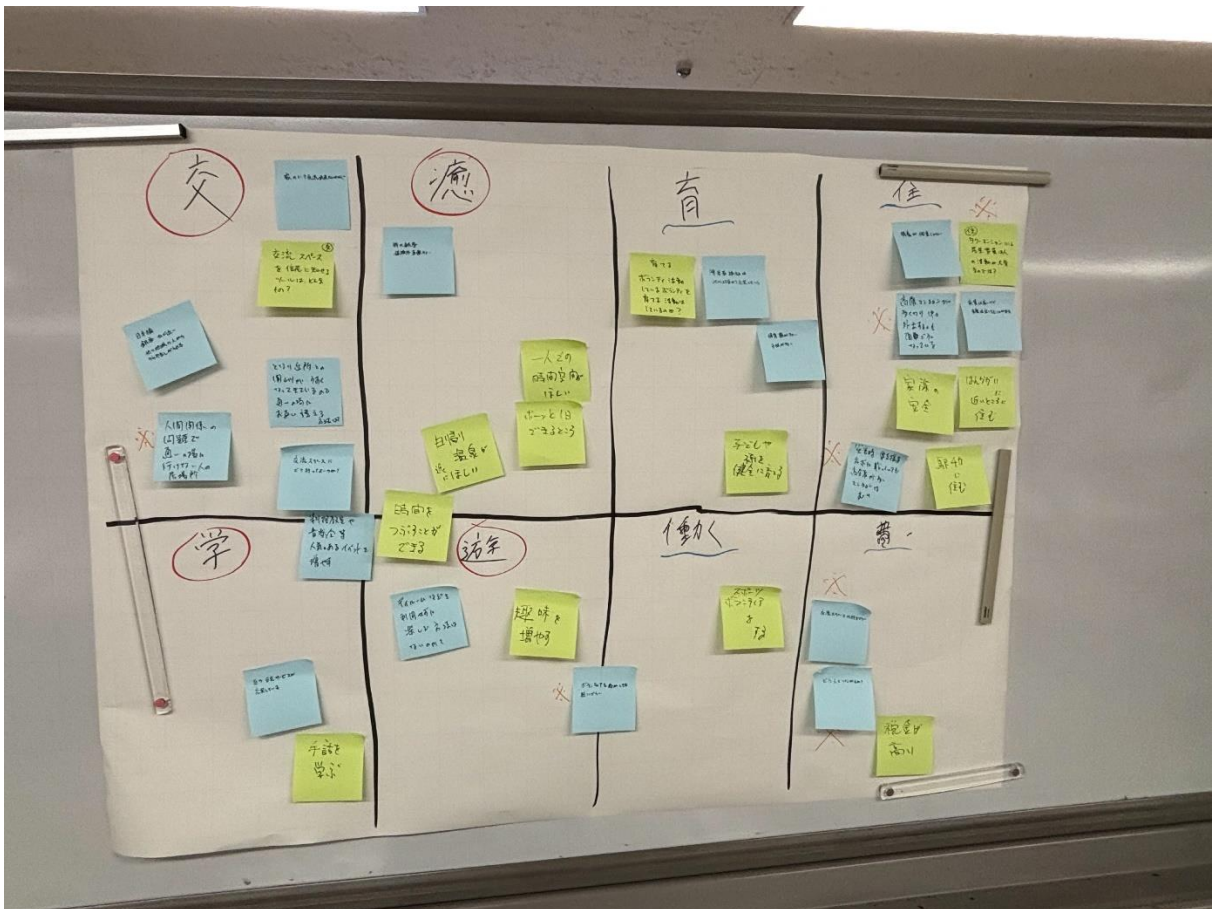
私たちは、先生の講義の中にあった第13次国民生活審議会「国民生活指標」を使って8つの項目に分け、自分たちの希望や要望・何か思うことを付箋に書いて、8つの項目のどこに当たるかを話しました。意外にも癒し系であったり、ポジティブ・ネガティブ、8つ全てが出てきました。

「中央区が意外に住みやすいところ」「お金もあるので、サービスもすごくいい」という意見はかたよりがなかったです。あとは、例えば、「中央区民の94%が高層マンションに住んでいる」ということから、「いろんな障害があるんじゃないか」という意見も多く出ました。

自分たちが活動するところで、人と交わるのは良いことだけれども、人間関係って難しいよね、必ずしも全てがいいようにはいかない、そういうところが配慮されれば、活動拠点も入りやすくなっていくんじゃないだろうかという話も出ました。

面白いと思ったのは「働く」「遊ぶ」の項目で、「ボランティアに参加しやすいよう参加しづらい」ということです。中央区はサービスが良すぎるので、ボランティアを募集するところがないのではないのでしょうか。例えばオリンピックや東京マラソンのボランティア団体の活動はあっても、なかなか募集してなかったり、やりたくてもちょっと入りづらい。

そういったところがオープンになることが、こういった活動拠点の過ごしやすいところに繋がっていくんじゃないかというのが最終的な結論になりました。



## 2グループ

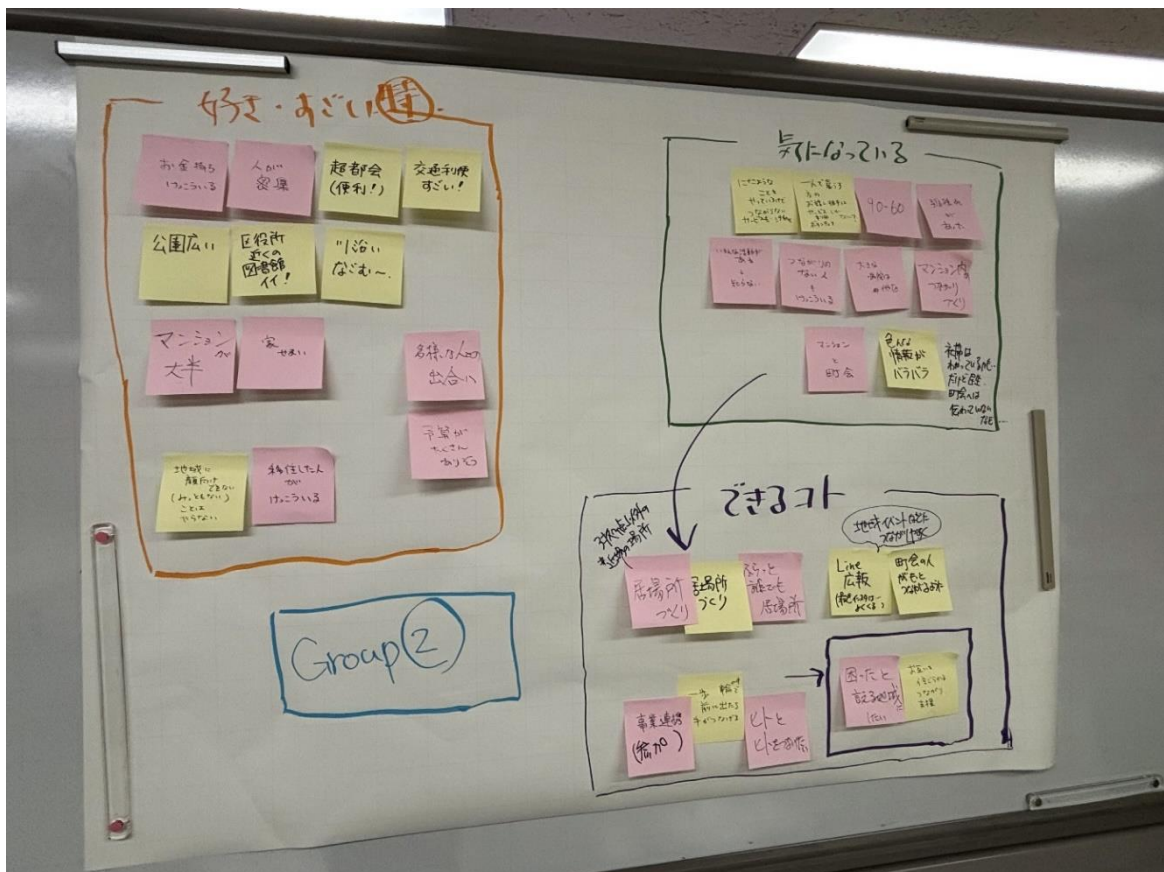
私たちのグループの議論の中心は、「中央区は、周囲の環境もサービスも恵まれているのにも関わらず、なかなか繋がりが作れない地域なんじゃないか」ということでした。

中央区の特徴は、「お金持ちが結構いる」「都会」「マンションが多い」「多様な人たちの出会いがたくさんあるまち」「予算がたくさんある・そういう場所だからこそ、移住してくる人も結構多い」など、すごく良いというのが出てきました。

一方で、先生の話でもあった「9060問題」や「孤独死」、「いろんな活動があってもその情報を知らない・なかなかアクセスしにくい・サービスやボランティアに繋がらない」、「マンションと町会の関係性が気になる」など、「いろんな情報やサービスがあるにもかかわらず、それをうまく取れていない。だから、なかなか繋がりにくい」ということが気になることとして挙がりました。

2グループでは「このワークショップをどう知って参加したのか」という話にもなり、通知が来た人と、自分で見つけて参加した人に分かれました。自分で見つけて参加した方は、自ら情報を取りに行ったけれども、まず情報がこないと、なかなか参加できない。そういう(情報伝達の)あり方も考えていく必要があるんじゃないかというのが「できること」の中で挙がりました。ほかには、地域を繋げていくため・顔の見える関係になるためには「居場所」が必要で、3拠点以外にも、「歩いて行けるような距離に(拠点が)あった方がいい」という意見が出ました。また、繋がりを作っていくためには、「町会の人と繋がる仕組み」や、「LINE活用した広報活動」などもあったりするといった意見もありました。

結論は、「困ったことが気軽に言えて、地域でみんなで助け合えるような、支えになっていたら良いのではないか」ということに至りました。



### 3グループ

グループ3は、地域の「特徴・魅力」、「気になっていること」、「やりたいこと」「既にやっていること」を書きました。

【まちの魅力】は「人口が多い」「社会で頑張っている・勝ち組も多い」「タワーマンションが多い」「昔からの顔見知りでお付き合いしている」などが挙がりました。

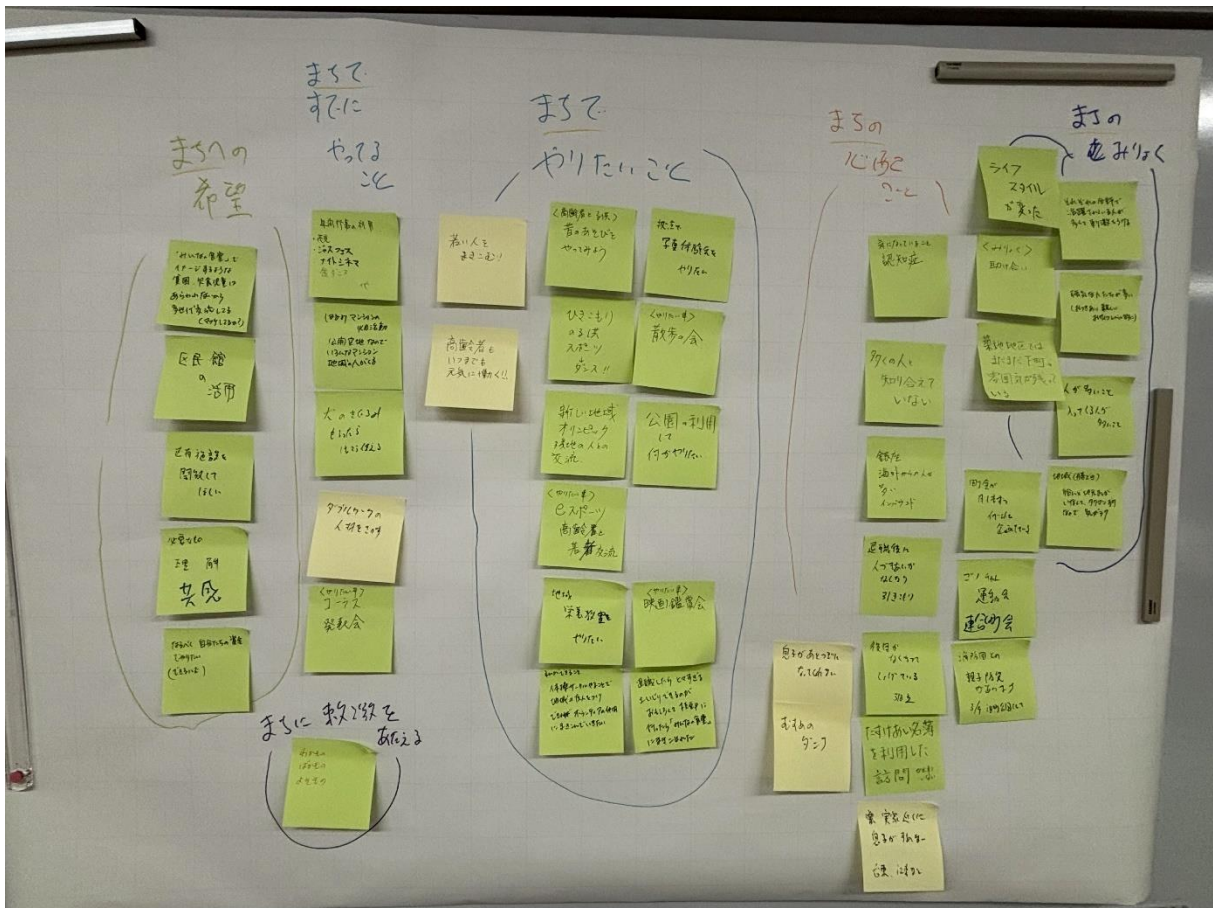
ただ、そういうところも高齢化していて、心配になる人がいるという話になり、【まちで気になっていること】として意見が出ました。

【やりたいこと】では、「公園を利用して何かしたい」、「映画鑑賞会」「昔遊びを高齢者と子供と一緒にやってみたい・eスポーツを高齢者と若者でやってみたい」や「選手村跡地などの新しい地域の人と交流したい」などが挙がりました。

【まちで既にやっていること】は、「年中行事(町会の青年部が考案する「花見」「ジャズフェスティバル」「ナイトシネマ」「盆ダンス(盆踊り)」や、「マンションの畑の活動を公開空地でやることによって、近所の方や遠い地域の方もつながっている」などが挙がりました。

しかし、問題は後継者不足です。ボランティアなど、若い人にどう繋げていくかという話になりました。これに対して、「自分自身がハブになって、「この人いけそう」と思った人にリクルートする」というのが良いのではないかという意見が出ました。

キーワードは、「若者バカ者よそ者の意見を聞く」ということです。息子に後継者頼むのは大変難しいけれども、娘の旦那にやらせるのは割といけることもあるという話もあり、それも一つのヒントになるかもしれません。





【講師講評】

孤立している人たちはたくさんいる。そういう人たちを、皆さんの手でできるだけ孤立させない、そんな地域コミュニティを作っていただけたらと思う。

・海外だと、ボランティアの方が町内に新しく入ってきた人に地域のルールや何がどこにあるかなどを教えてあげたり、チューターのように、地域の暮らし方をアドバイスしてくれる仕組みがある。そういう「地域ボランティア」が普通に町会・自治会にいるが、日本にはいない。

発表の中でもあったように、「アクセスしてこい」という感じだと、次の人は入ってこない。

→こちらから若い世代を支えてあげる、転入してきた人にサービスをしてあげるといふ発想が必要。

・今の延長線上のままだったら、町内会自治会は 10 年以内に消滅していく。これは中央区だけではなく、全国どこでも同じことが言える。若い人たちが町会自治会に入らないのは、メリットがないから。先輩の世代が作り上げた町会自治会活動をそのまま継承して、次の世代が違うことをやろうとしたら、勝手なことやるなど叱られるのでは、やりたいと思わない。若い人に、「高齢者を支えてください」みたいなことを言っていたら、来るわけがない。だから、若い人たちは、町会自治会には入らないけど、自分たちで活動をしたり、サークルを作ったりしている。

→町会自治会が、若い人たちや転入してきた人たちにもっと目を向けて、その人たちを助けてあげる活動をすれば、「若いときはお世話になったから今度は私が支える番だ」と思うようになる。

→中央区は都会なりの難しさはあるはずだが、若い人や転入してきた人がこの地域に馴染んでもらえるような、住民同士のサービス提供を考えてみると良い。

・ボランティア活動が中央区にない、ということはない。手伝ってもらいたいことはいっぱいあるはずなのに、手伝いたい人に届いてないということ。

→これまでの情報の届け方やアプローチ方法を考え直さないといけない。

## 9 資料編

### ●ワークショップの様子



講演「コミュニティのこれからと地域活動について」



講演(全体の様子)



グループワークの様子(1グループ)



グループワークの様子(2グループ)



グループワークの様子(3グループ)



グループワークの様子(4グループ)



発表(1グループ)



発表(2グループ)



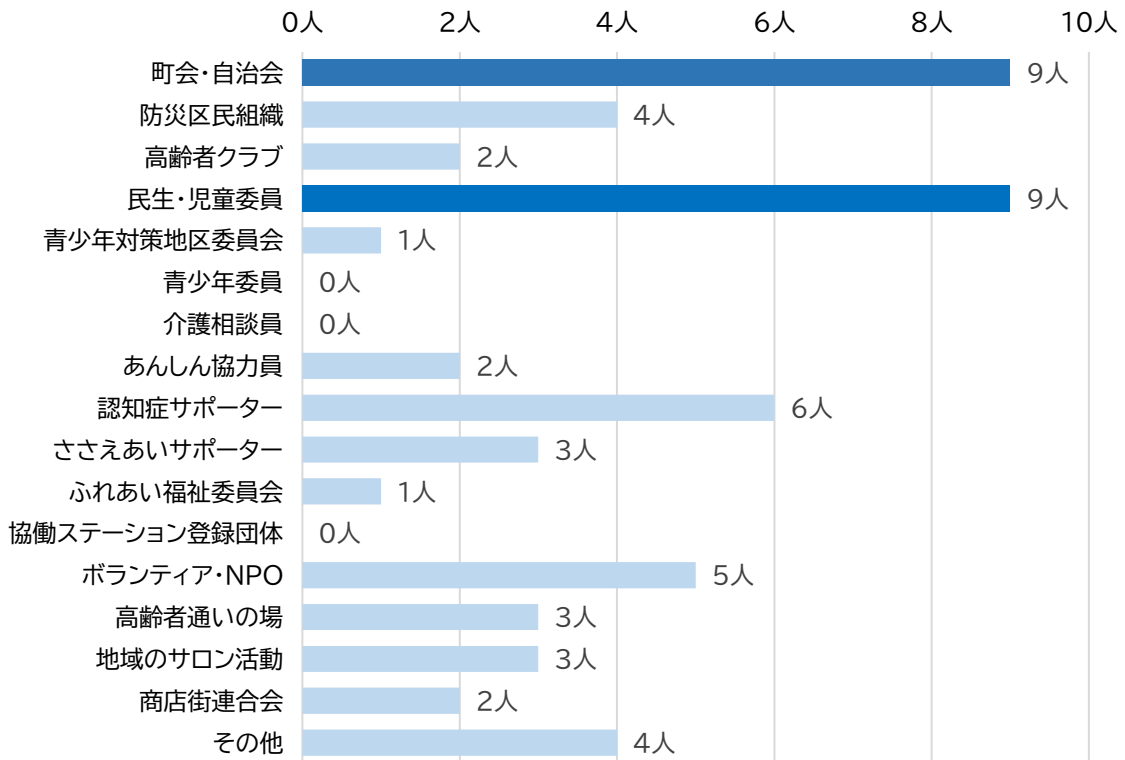
発表(3グループ)



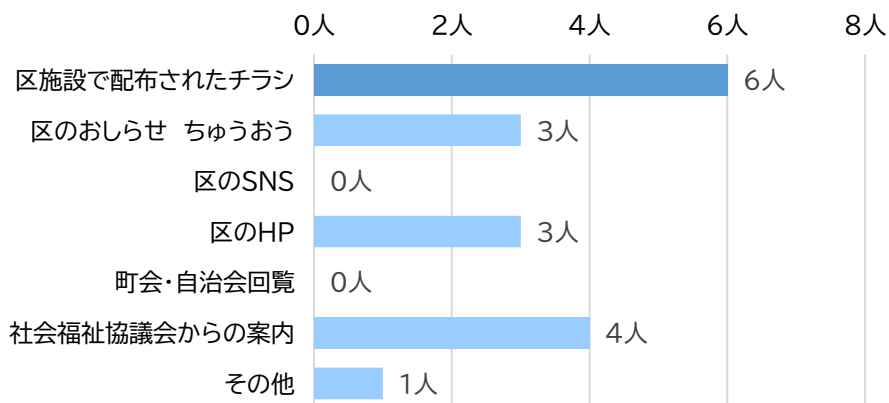
発表(4グループ)

●アンケート結果(回答者数:15名)

問1 どのような地域活動をしていますか(あてはまるものすべてに○)



問2 今回のワークショップを何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)



【その他の回答】

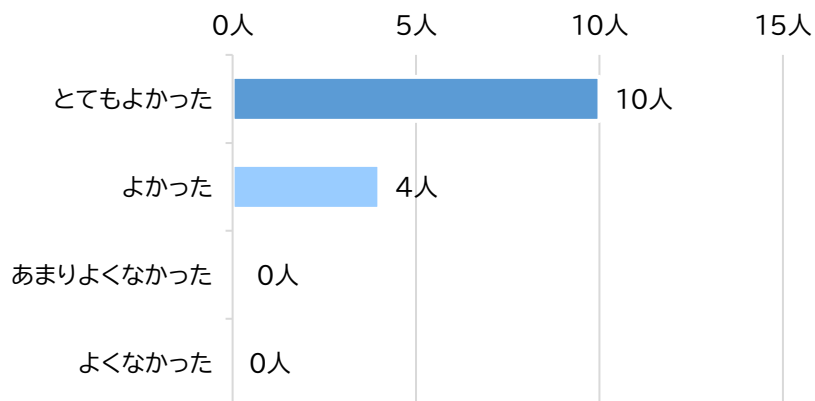
・参加者から誘われた

問3 今回のワークショップに参加した理由を教えてください。

【自由記述】

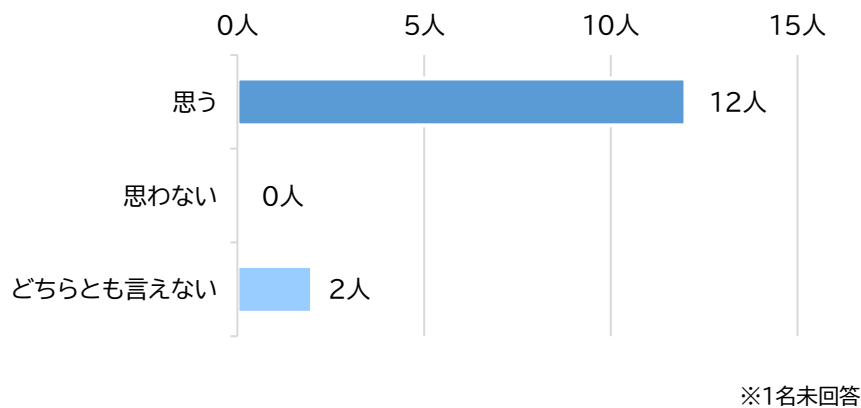
- ・ 自分が個人的に行っている「地域活動」を地域福祉の視点から見てみたいと思ったから。
- ・ 毎回参加させていただき皆さんのお話がとても参考になりました。
- ・ 前回は参加して、とても勉強になったから。
- ・ 去年も参加したかったのですが、情報を取れず、今年参加しました。地域づくりは介護予防や防災にも重要だと思います。
- ・ 区の活動や現在地を知るきっかけにしたかったから。
- ・ 内容にも講師の先生にも
- ・ ささえあいサポーターなどボランティアに登録しても実行できないので、参考になることがあれば知りたくて参加しました。
- ・ 地域のことをみんなでワイワイガヤガヤ話したい！
- ・ 他地域の現状を知りたかった
- ・ 重要課題として孤立死
- ・ 以前参加したことがありまた参加してみようと思いました。
- ・ ファシリテーターの話がおもしろいから。
- ・ 地域福祉を理解したいと考えたから。

問4 今回のワークショップに参加していかがでしたか。(1 つに○)



※1名未回答

問5 今回のワークショップは、今後の地域活動に活かせると思いますか。(1つに○)

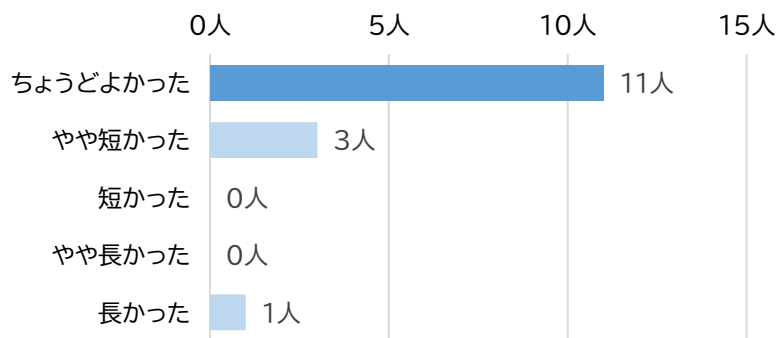


問6 問5の回答についてお伺いします。その回答理由についてお聞かせください。

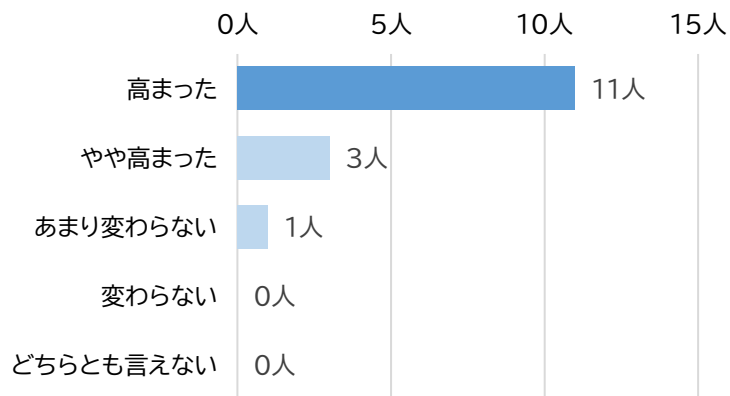
【自由記述】

- ・ 地域でふだん関わらない人と話せた。いろんな活動を知れた。
- ・ ”new comer tutor”はまさに自分の活動で大事にしていることなので方向は間違っていなかったと感ずることができました。
- ・ 新しい方の参加が良かった。これからも新しい方への参加が多くなる事を願います。
- ・ 話しあいのグループの方とお知り合いになれたことが嬉しかったです。今後何か交流ができればと思いました。
- ・ 各グループから出ている意見が的を射ているように思いました。
- ・ 私は転入して来たので、他の自治体を知っていますが、今回参加した方は生まれてからずっと中央区に住んで生活しているのかな？と思いました。
- ・ 行政も社協もかわらなければ、今後の展望は語れない。
- ・ 今後の活動の参考
- ・ 様々な人が参加して良かった。
- ・ 日本橋・京橋・月島で地域差があると気づいた。良いものは利用していきたい。
- ・ 広報活動の重要性を考えたから。

問7 ワークショップの話し合いの時間(長さ)はいかがでしたか。(1つに○)。



問8 ワークショップに参加して地域福祉に対する関心は高まりましたか。(1つに○)



問9 今後ワークショップで話したい内容、興味のあるテーマがありましたらお書きください。

【自由記述】

- ・ 地域の防災
- ・ 地域を考える専門職との交流、地域福祉を取りまく人々の理解
- ・ マンションにおける高齢者問題
- ・ 次世代に継ぎたい(後継者)
- ・ 地域が生き生きするには何が必要？
- ・ 参加できる日時なら何でも参加したいです。
- ・ 子育て家庭に焦点を当てたもの
- ・ 地域まるごと、子育ても防災も介護も医療も共通項は”つながり”なので、いろんな人とのワークショップを企画してほしいです。
- ・ ボランティア活動を長く続けていくためにはどうしたらよいのか。
- ・ 後継者、仲間づくりの方法

問 10 本日のワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

【自由記述】

- ・ 人の意見がとても参考になった。
- ・ 講師の川上先生の講演をもう少し聞きたかった。
- ・ ネガティブな意見がとても良かった。
- ・ 以前は社協の皆さんが精力的にまとめあげてくれましたが、今回はあまりなかったです。方法が変わりましたでしょうか。
- ・ テーマが大きすぎて、何を話すか決めるのに少し時間を使ったので、何回も継続されているワークショップでしたら、テーマを絞っても良かったかと思いました。
- ・ また参加させていただきます。
- ・ ありがとうございます。
- ・ 参加した方々は時間をつくっても来ますが、自分から参加しようと思えない方々にどうアプローチするのかと思いました。
- ・ ワorkshopで出ている意見やアイデアを分析していただき、地域活動や理解が深まるようにしていただけると嬉しいです。新たな参加者が増えることを期待しています。
- ・ いろんな施策、団体をつなぐ活動、事業を連携させていく仕掛けを考えたいなと思いました。
- ・ 人口の多い中央区でこれからいろいろな活動が生まれてくれればよいと思いました

## 9 さいごに

ワークショップで出されたご意見やアイデアは、地域カルテ更新や地域活動拠点の活用などに向けた参考資料として活用する。